

■ 博多のまちづくりの「プラットホーム」を目指して  
博多まちづくり推進協議会 事務局長 有隅基樹

## 1. はじめに

### (1) エリアマネジメント組織の設立

博多駅周辺地区は、九州・西日本における業務の中心拠点であるとともに九州最大の交通結節点である博多駅を中心に九州の玄関口として発展してきました。

博多駅地区土地区画整理事業(写真1)により整備された都市基盤は既に約40年を経過し、山陽新幹線開業にあわせて1970年代に建設された建物も多く残っています。

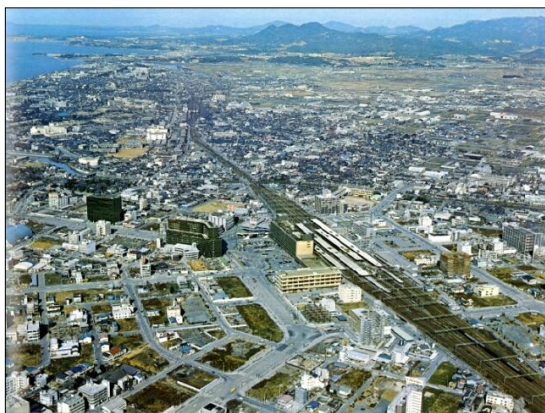


写真1 区画整理時の博多駅周辺(昭和45年ごろ)

そうした中、平成18年6月の「新・福岡都心構想」の策定や「博多駅地区まちづくり研究会」による提言がなされ、ことでエリアマネジメントの必要性の機運が高まり、平成19年4月に公学民が一体となった「博多駅地区まちづくり推進組織準備会」が設立されました。そして、九州新幹線全線開業を3年後に控えた平成20年4月、それまで博多駅周辺地区にて活動していた「はかた駅周辺および駅前通り発展協議会」と統合のうえ、当協議会は設立されました。

## 2. 博多まちづくり推進協議会について

### (1) 「にぎわい・回遊・おもてなし」が取り組みの軸

109会員でスタートした「博多まちづくり推進協議会」が最初に取り組んだのは「社会実験 はかたんウォーク」です。「九州」「アジア」の玄関口である博多駅地区を部隊に住む人、働く人、訪れる人が主役となったまちづくり、また、新たな時代の魅力的な風格のある、時代のニーズにあったまちを創造するためには何が必要なのか、社会実験を通してその方向性を探りました。

社会実験では、「博多駅地区と天神地区を結ぶにぎわい・回遊軸」の形成と「安心・快適に通行できる歩行者空間の確保」の2つを目的に、オープンカフェや、通り名サインの設置、歩行者と自転車の分離、第2タクシープールの設置など13のメニューを実施し、そのノウハウが今では春・秋の年2回開催される「まちづくりイベント はかたんウォーク」として、協議会を代表する定番イベントにまで成長しました。特に、博多駅周辺地区に点在する寺社などの歴史や文化、グルメ、ショッピングなどの情報が満載の「博多まち歩きマップ」は大変好評で、春や秋の博多のまち歩きには必携です。

平成21年4月には、「博多まちづくり宣言」、同年12月には「博多まちづくりガイドライン」を策定しました。

ガイドラインは、既に述べた社会実験やシンポジウム、「博多の未来予想図コンテスト」の実施、各種講演、出前講座などを踏まえ、博多のまちに関わる人々が共有できる「まちの将来像」と、その実現に向け、みんなで



協力し合って進めるべきまちづくりの指針であり、「駅を拠点とした、歩いて楽しいまちづくり」、「住む人、働く人、訪れる人が主役となったまちづくり」を目指して、ハード・ソフト両面の取り組みを推進しています。

さらに、はかた駅前通りの景観形成の取り組みも展開しました。ガイドラインにおいて、天神地区と博多駅地区を最短で結ぶ「はかた駅前通り」が将来にわたって楽しさあふれる回遊主軸を形成し、まちの資産価値を保つために必要な景観形成の在り方の検討すべく、当協議会が発起人となって沿道の土地建物所有者に呼びかけ、「はかた駅前通り景観形成プラン検討会」を設立しました。検討会は平成22年8月から計6回開催され、屋外広告物や建物のセットバック、緑化など様々な項目について議論された結果、同年12月に地域による景観ルールが策定されました。その内容をもとに、福岡市に対して都市景観形成地区指定を要望し、平成24年3月に同通りが景観形成地区に指定されました。

沿道の建物の建替えが今後見込まれる同通りの景観づくりにおいて、景観形成地区指定は大きなインパクトとなるでしょう。

## (2) まちの転機 ～平成23年3月以降～

東日本大震災の翌日の平成23年3月12日、九州新幹線という九州内の主要都市を結ぶ大動脈がつながり、時間地図が大きく変わりました。熊本へは33分、鹿児島までは1時間19分で行くことができる九州新幹線の時短効果は大変大きく、私たちの仕事やライフスタイルにも大きな影響をあたえるものとなりました。

また、先行して開業した新博多駅ビル「JR博多シティ」にも多くの方が訪れ、大変なにぎわいを見せるとともに、リニューアルした駅舎は和をイメージしたデザイン、インパクトのある大屋根、そして広々と開放的な駅前広場により、シンポリックな建物へと生まれ変わりました。

当協議会においても、九州新幹線全線開業からの3年間を「飛躍・発展の期間」と位置づけ「中期活動計画2013」を策定し、新たなまちづくりへのチャレンジと天神地区などとの更なる連携を基本スタンスに、「にぎわい・回遊の更なる向上」と「おもてなしの充実」を基本方針としました。

そうした中で、当協議会が最初に取り組んだチャレンジは「はかた駅前通りどんたく広場」の運営です。「博多どんたく」といえば、福岡市民の貴重な財産。博多駅は陸の玄関口にもかかわらず、近隣でどんたくパレードを見ることができず、博多駅に降り立った観光客は「どんたくはどこでやっているのですか？」という状況でした。そこで、福岡市民の祭り振興会や警察など関係各所のご協力をいただき、「はかた駅前通り」を歩行者専用道路にし、平成23年5月に24年ぶりにどんたくパレードを開催したのです。広場には地元のみならず九州、西日本各地から36団体1,800名のどんたく隊に参加いただくとともに、平成24年の開催では人気アイドルHKT48にエンディングで出演していただくなど、「伝統の中の新しさ」を提案することができたと考えています。(写真2) また、明治通りで開催される「どんたく広場」と開催時間をずらすことにより、博多駅周辺地区を基点に福岡都心部全体への流れ、すなわち「回遊」を生み出すことができました。



写真2 はかた駅前通りどんたく広場の様子

その他、寺社コンサートの開催や音楽ワークショップ、スタンプラリー、通り名付けなどのにぎわい・回遊促進活動や、来街者に気持ち良くまちを歩いていただくよう、清掃・美化活動「クリーンデイ」やはかた駅前通り植栽管理事業、防犯対策講習会、韓国FITをターゲットにした「韓国語版博多まち歩きマップ」製作などの多言語対応といったおもてなし充実活動に取り組んでいます。

冬には博多駅周辺地区のイルミネーション事業者と連携し、「冬のファンタジー・はかた」(写真3)を展

開。白を基調とした100万球を超えるLEDで一体感のある演出をするとともに、We Love天神協議会とも連携し、「福岡 光のコンチェルト」と題したリーフレットを作成し広域集客にも取り組んでいます。



写真3 イルミネーション「冬のファンタジー・はかた」

### 3. 「選ばれるまち 博多・福岡」をめざして

#### ～ 博多まちづくりガイドラインの改訂 ～

「博多のまち」は新たな局面を迎えようとしています。平成25年度には、福岡市は各種都市計画（総合計画、都市計画マスタープラン、交通基本計画）を改定し新たな目標を定めるほか、承天寺前道路の再整備も完了し、博多の新たなランドマークとなる「博多千年門」の完成も予定されています。また、博多港を利用した韓国・中国からの観光客の増加やKLMオランダ航空による福岡＝アムステルダム便の就航など、海外からの来街者もさらなる増加が見込まれます。さらに、平成32年には、地下鉄七隈線（天神南－博多間）の延伸開業が予定されています。

当協議会はそれらの環境の変化に対応するとともに、これまでの実績やノウハウを活かした活動手法の充実を図るべく、まちづくりの指針である「博多まちづくりガイドライン」の改訂に着手しました。



写真3 ガイドライン改訂PJワークショップ

協議会内にプロジェクトを設置し、平成24年9月のキックオフ以降、全7回のプロジェクト会議を開催予定です。平成25年12月の改訂に向け、九州大学の坂井猛座長のもと、地域住民や企業、行政、学識経験者などで構成される50会員85名のメンバーで改訂作業を進めています。

改訂作業においては、①地下鉄七隈線延伸を見据えたまちづくり活動の展開、②協議会エリア内での再整備の動向との連携、③他エリアマネジメント組織や行政などとの連携による「選ばれるまち『福岡』」の取り組みの3つに留意しつつ、設立以降に蓄積した実績やノウハウ、さらには他エリアマネジメントの先進事例も参考に、短期・中期・長期でのアクションプラン具体化するとともに、行政と地権者の間に立つ「エリアマネジメント組織」としての役割の明確化を図ります。

また、改訂後のガイドラインの活用方法についても見直し、博多駅周辺地区の魅力を伝える対外的（ビジネス・観光・居住等）なプロモーションツールとして積極的に活用し、エリアイメージの向上及びブランディングを図っていきたいと考えています。

### 4. 最後に

これまで「点」を「線」につないできた当協議会の取り組みを、これからは「面」に広げたい。そのためには、私たちの持っているノウハウを最大限に活かすとともに、専門的な知識をもつ組織・団体とより一層連携を深める必要があります。そうした、エリアマネジメント活動を介したネットワークを縦横に活かし、今後生じうる諸問題に対応するとともに、地域住民、企業、来街者が混在する「都市型コミュニティ」の相談窓口、プラットフォーム的な機能を持つ必要があると考えています。

「住む人」、「働く人」、「訪れる人」の誰からも必要とされ、また頼っていただける協議会を目指し、これからも博多のまちの将来像実現に向け、会員のみならず、市民とともに取り組んでまいります。

2013年3月入稿

---

## 第5回 日本都市計画学会九州支部幹事会議事録

日時：平成24年12月8日（土） 15:00～16:30

場所：西日本ビル5F会議室

（福岡市中央区天神1-10-17）

出席者：佐藤誠治、外井哲志、坂井猛、有馬隆文、伊東博史、内田晃、内田智昭、大西康伸、辰巳浩、塚原健一、堤昌文、日暮光一郎、姫野由香、三島伸雄、箕浦永子（15名）

### 議事内容

#### 1. 前回議事録の確認（坂井）

- ・添付議事録に基づき、前回の会議内容を確認した。

#### 2. 理事会報告（佐藤）

- ・平成24年度第2回会長アドバイザー会議について概要説明が行われた。「学会の現況報告と課題について（①平成24年度の事業計画の執行状況と課題について②財務改善活動について③特別委員会の活動について④「都市計画CPD」の進捗状況について）」の概要説明が行われたとの報告があった。
- ・また、アドバイザー会議委員13名から出された、学会財務改善に関する意見等について報告があった。

#### 3. 支部20周年記念事業について（坂井）

- ・添付資料により、大分会場、福岡会場のシンポジウム開催報告がなされ、原案通り承認された。

#### 4. 「支部ニュース」（1月発行分）について（姫野）

- ・添付資料により2013年1月発行予定の支部ニュースが原案通り承認された。

#### 5. 「支部だより」（11月発送分）について（箕浦）

- ・添付資料により2012年11月に学会本部へ投稿済みの支部だよりについて報告がなされた。

#### 6. 平成25年度新規研究分科会の審査方法等について（内田晃）

- ・添付資料により審査日程の変更案が説明されるとともに、当初締切日（12/3）に1件の応募がなされたことが報告された。
- ・審議の結果、応募が1件のみとはいえ、締切日までに応募がなされており、当初の日程により審査を行っていくこととなった。

#### 7. 九州支部報告会（ポスターセッション）実施につ

いて（有馬）

- ・添付資料により、例年どおり平成25年度支部総会と同日・同会場での開催を前提とした募集要項が提示された。
- ・以前より、審査時間が不足していることや学生相互の交流の場の確保等が課題として挙げられており、今後これらの点について継続審議することとなった。

#### 8. 支部長賞について（箕浦）

- ・別添資料により、平成24年度支部長賞に関する依頼文、推薦様式、依頼先が提示された。
- ・送付先リスト中で宮崎大学の学科名変更が反映されていないとの指摘があり、修正することとした。

#### 9. 平成25年度九州支部事業計画・予算計画について（内田智）

- ・別添資料により、過年度実績に概ね沿った事業計画とその予算案が提示された。
- ・現時点での質問・意見は出なかったが、最終確定期限まで引き続き検討していくこととなった。

#### 10. 名義後援について（新規2件）（箕浦）

- ・別添資料により、名義後援案件が提示された。審議の結果、双方とも後援承認となった。

#### 11. 会計報告（内田智）

- ・別添資料に基づき平成24年11月末現在の会計報告がなされ、原案通り承認された。

#### 12. その他（支部としての学会財務改善活動について）（佐藤）

- ・学会員（個人会員や賛助会員）の確保に向けて、考えられる活動について意見交換を行った。
- ・引き続き検討していくことを確認した。

---

## 第6回 日本都市計画学会九州支部幹事会議事録

日時：平成25年2月15日（金） 15:00～16:15

場所：アクロス福岡セミナー室

（福岡市中央区天神1-1-1）

出席者：佐藤誠治、外井哲志、坂井猛、天本 徳浩、伊東博史、内田晃、内田智昭、大枝良直、大西康伸、堤昌文、橋本信幸、日暮光一郎（12名）

## 議事内容

1. 前回幹事会議事録(案)確認(佐藤)
  - ・添付議事録に基づき、前回の会議内容を確認した。
2. 理事会(12/14分)の報告(佐藤)
  - ・別添の議事録に基づき平成24年度第5回理事会の議決事項として、会員の入退会、研究委託案件(1件)、研究交流助成の公募申請、全国市長会との共催、事業員会の委嘱について承認されたことについて報告があった。
  - ・学会の全体協議事項として、平成25年度事業計画・予算(案)、財務改善TF第1回、第2回会議の報告、都市計画ポスターセッション、学会情報環境整備、国際交流協定の締結、防災・復興問題研究特別委員会の新部会設置、事務局運営状況について報告があった。
  - ・常置委員会、特別委員会、各支部からの活動報告について紹介がなされた。
3. 支部20周年記念事業(記念誌)について(坂井)
  - ・添付資料により、執筆者への原稿要請・返信状況について報告があり、提出されていない方々へ引き続き催促を行うこととなった。
  - ・記念誌には支部の歩みを記す年表を記載することとしていたが、今回資料に記載がないことから、編集状況について担当幹事に再確認することとなった。
4. 平成25年度新規研究分科会の審査結果(案)について(内田晃)
  - ・添付資料により審査結果が説明され、原案通り「北部九州陶芸まちづくり研究会」(代表研究者:山下三平九州産業大学景観研究センター)の採択が承認された。
5. 九州支部報告会(ポスターセッション)実施について(坂井)
  - ・添付資料により会場確保の問題から総会と併せて、日程を4/6(土)から4/7(日)に変更することが説明された。
  - ・今回は昨年度開催されたアドバイザー一会議を開催しないことから、ポスターセッションの時間を1時間拡大する案が提案された。
  - ・1時間の時間拡大を活かし、従来のポスター前での個別発表方式から、参加者すべてにPPT等での説明・質疑を設ける方法に変更する案が提示された。
6. 平成25年度支部総会及び総会資料(案)について(坂井・内田智)
  - ・上記案について承認された。
  - ・添付資料に基づき、日時、会場、タイムスケジュールについて(4/7(日))案が提示され、原案通り承認された。
  - ・特別講演のご講演者について、川越清以氏(教授九州大学理学研究院 物理学部門 基礎粒子系物理学)に要請し、快諾を得ているとの報告があった。
  - ・添付資料(総会議案書(案)に基づき、議案(暫定案)が報告されたが、講演会について例年開催しているシンポジウムの記載がないことから、「1. 講演会及び事例研究会の開催」に「(3)支部主催シンポジウム」を追加することとなった。
  - ・「支部の表彰制度」(都市計画九州賞(仮称))等の検討について活動内容として追記することになった。
7. 「支部だより」(1月発送分)について(内田智)
  - ・添付資料により、既に本部へ投稿済みの支部だより原稿が報告された
8. 会計報告について(内田智)
  - ・別添資料に基づき平成24年9月末現在の会計報告がなされ、原案通り承認された。
  - ・年度末に向け決算事務を行っていく必要があり、未執行費用の概算報告が要請された。
  - ・立替金の早期報告について要請がなされた。
  - ・研究分科会の研究代表者への年度収支報告書の提出が要請(メールでも要請済み)された。
9. その他(本部表彰、支部長賞)
  - ・別添資料により、名誉会員、本部表彰推薦について本部理事である佐藤支部長から幹事に相談があり、該当者について心当たりがあれば近日中に佐藤支部長に連絡し、執行部で協議することとした。
  - ・支部の広報など、地域に対する学会の存在感を示して行く方法について、下記事項等、今後協議することとした。(支部ニュース、都市計画九州 who's who、都市計画初任者研修、自治体に対する意向聴取、審議会等への委員推薦等)

- ・別添資料により、支部長賞について、九州工業大学工学部社会工学科より学科内に設けているコース別に推薦できないかとの問い合わせがあったとの報告があったが、学科ごとに1人のルールを守るべきとの意見が出され、その旨返答することとなった。

---

#### ■支部ニュースに関する問合せ・連絡先

支部ニュースに関するお問い合わせやご意見等がございましたら下記までご連絡ください。各種イベント（シンポジウムや講演会等）のお知らせ等を掲載することも可能です。案内文を下記までお寄せください。

【公益社団法人日本都市計画学会九州支部事務局】

TEL : 092-642-3346 FAX : 092-642-3349

E-mail : cpj-q@arch.kyushu-u.ac.jp